

農産物のインスタレーション・コンセプト

2007年3月2日 九州大学 知足美加子

本作品は粕屋名産の農産物を使ってインスタレーションを作ってほしいという依頼を受けて制作するものである。会場では「植物の声」から生まれた音楽が、ヴァイオリンと笙によって演奏される。笙は竹林に差し込む「光」を象徴する和楽器という。植物と光、ヴァイオリン・笙の響きをもとに構想を練った。

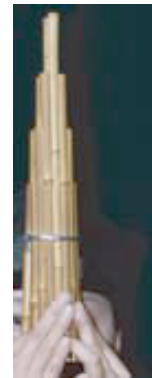
粕屋名産の柑橘類を、光に見立てて構成している。神道の祝詞に「筑紫の日向の橘（たちばな）の～」という祓いの言葉がある。冬でも常緑の橘（柑橘系樹木）は、古代より「永遠の生命力」のシンボルであった。

作品下部は、粕屋名産のブロッコリーを、竹を使って藁に固定する。これは能古の島で行われる「荒神祭り（土と火と水の神）」の供物からヒントを得ている。

植物は「土・水・光」が調和して生まれるものである。音楽にとっても調和は大切な要素である。今回の作品は、諸要素の「調和」をテーマに制作する。



イメージ図



笙

素材

- イヨカン50個 ●スウィートスプリング40個 ●ハルミ120個
- デコポン50個 ●みかん50個 ●ブロッコリー50個（以上JA粕屋）
- 竹・藁など（別紙） ●径6mm丸鋼（知足） ●脚立

農産物のインсталレーション/事前に準備するもの

2007年3月2日 九州大学 知足美加子

*高所の作業が多いので脚立が必要

4000mmの太
めの竹1本を
16分割したも
の
(16本)

直径100mm程度
の竹を半分に割った
ものを12本。

2600mm×2
2300mm×2
2000mm×2
1700mm×2
1500mm×4

直径100mm程度
の竹3本。

1700mm×1
1400mm×1
500mm×1本

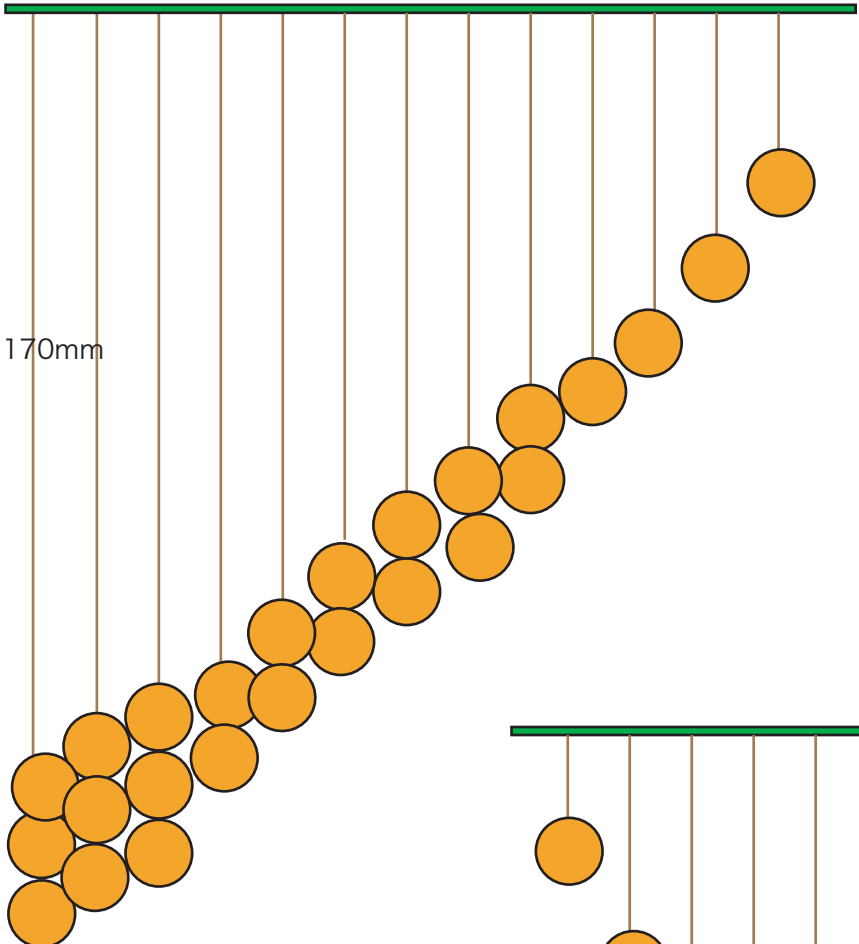
1700mmの細
い竹を4本

そのうち2本に
110mmごとに
ノコギリ傷をい
れておく。(針
金の固定のため
) 後の2本
は120mmごと
に傷をいれてお
く

1500mmの細
めの竹を8分割
したもの2本
150mmごと
にドリルで7つ
の穴をあけて
おく

藁の束。直径100mm
程度。長さ300mmを
12束。

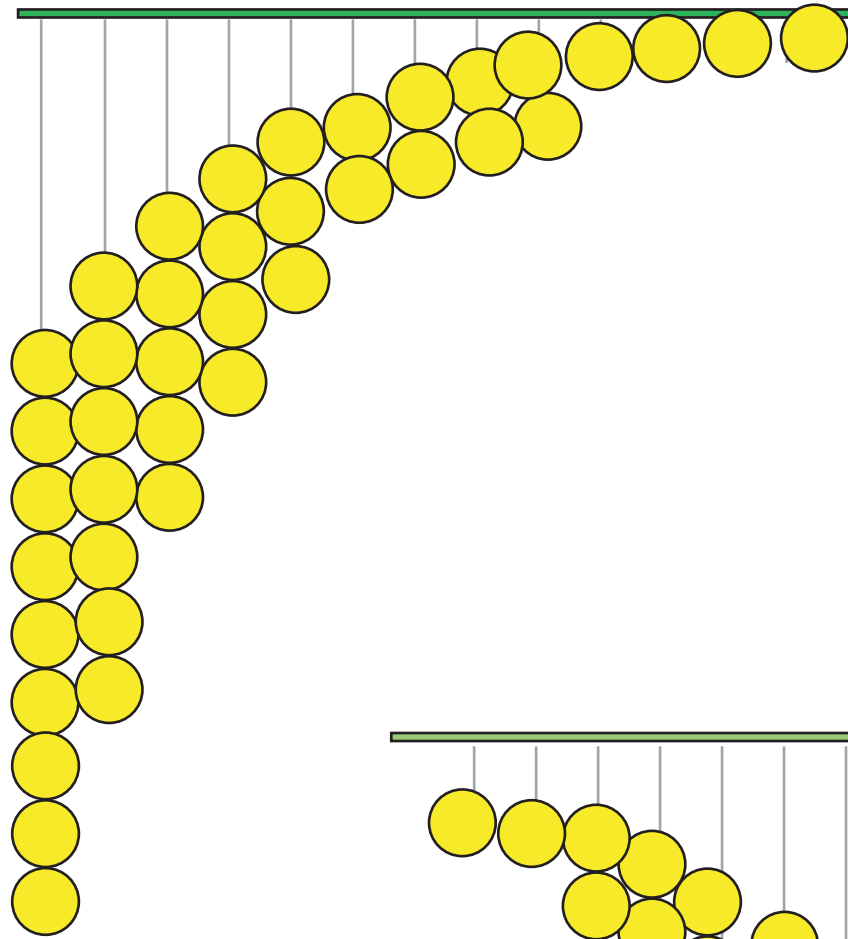
先が尖っている竹箸。長さ
200mm程度を100組。
使用後のものがあれば再利
用。なければ知足が100円
ショップなどで購入する。



細めの竹1700mm
120mmごとの切り目
銅針金の先にイヨカン
果実の下は短く切った
透明チューブで留める

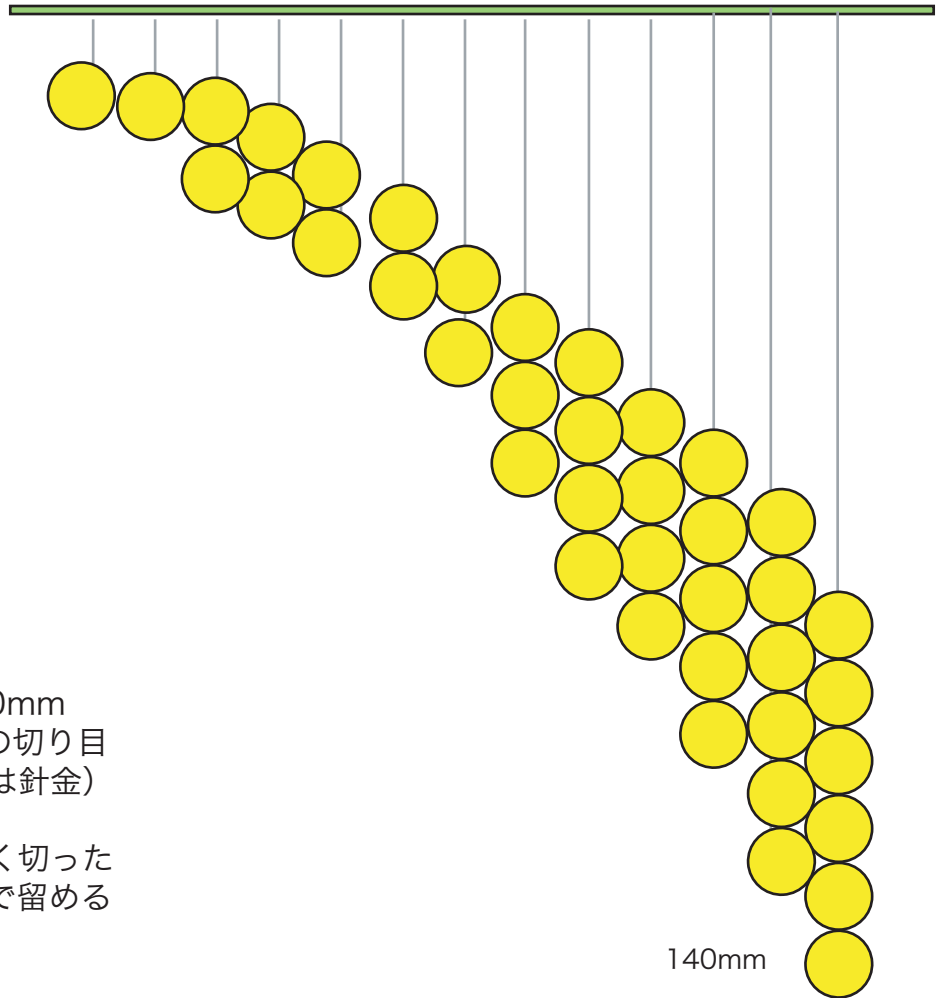


細めの竹1700mm
120mmごとの切り目
銅針金の先にスイート
スプリング
果実の下は短く切った
透明チューブで留める



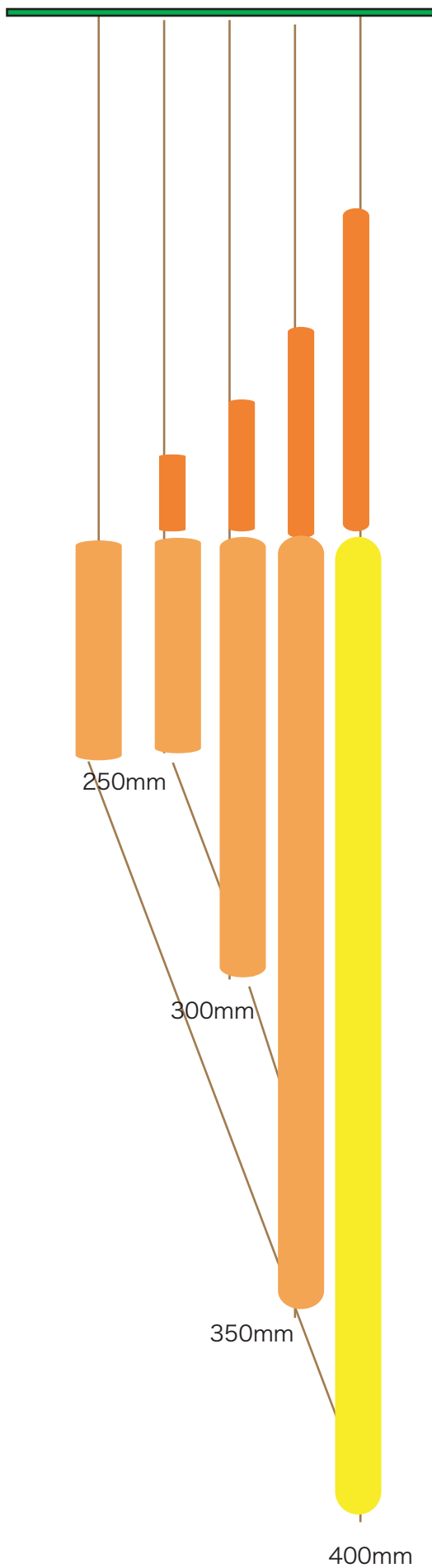
細めの竹1700mm
110mmごとの切り目
テグス（または針金）
の先にハルミ
果実の下は短く切った
透明チューブで留める

160mm



細めの竹1700mm
110mmごとの切り目
テグス（または針金）
の先にハルミ
果実の下は短く切った
透明チューブで留める

140mm



八つに縦割りした竹900mm
150mmごとにドリルで穴

銅針金かテグスを400mm×
5本束ねる（短く切ったアク
リルパイプで最後を留める）

ハルミとデコポン、みかんを
組み合わせて繋ぐ。（さし針
は用意している）
500mmごと透明のチューブ
でとめながら、横幅を増やし
ていく

同じ物を二つ用意する。

